

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	平成30年度 第2回 川西市都市計画道路網見直し専門委員会		
事務局(担当課)	都市政策部 都市政策課		
開催日時	平成31年3月15日(金)午後2時~午後4時15分		
開催場所	川西市役所 庁議室		
出席者	委員	飯田委員、井ノ口委員、吉田委員	
	その他	なし	
	事務局	都市政策部：松浦部長、篠崎副部長、 都市政策課：堀内課長、足立副主幹、阪本副主幹	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	議 題 (1)兵庫県都市計画道路網見直しガイドラインによる評価の流れ (2)兵庫県都市計画道路網見直しガイドラインに基づく評価(1次評価) (3)各路線の見直し方針について		
会議結果	審議経過のとおり		

審 議 経 過

平成 30 年度 第 2 回 川西市都市計画道路網見直し専門委員会

見直しの検証方法については、兵庫県都市計画道路網見直しガイドラインに基づき評価を実施するとともに、ガイドラインに加え、本市の視点により必要性・機能代替等の観点について専門委員会の意見を伺いながら検証を進めることとする。

具体的な検証方法については、ガイドラインに従い STEP1～3 について機械的に 1 次評価として実施した上で本市の視点により 2 次評価として地域づくりの方向性を、3 次評価として交通量推計を実施し、各 STEP にフィードバックを行いながら評価を行う。

今回の専門委員会では、1 次評価（STEP1～3）における評価結果の説明を行った。

【質問・意見等要旨】

議題（１）兵庫県都市計画道路網見直しガイドラインによる評価の流れ

委員： ガイドラインに従った 1 次評価（STEP1～3）は、交通量配分結果も踏まえ評価を行うこととなるが、今回の評価においては交通量配分結果を踏まえていない評価ということではよろしいでしょうか。

事務局： 交通量配分につきましては、来年度の早々に発注し実施する予定ですので、今回の結果では、交通量配分結果を踏まえていない評価となっております。できるだけ早いうちにお示ししたいと考えております。

委員： 交通量配分の話がありましたが、将来交通量については、開発計画というものはどのあたりまで考慮しようとしていますか。

事務局： 開発の相談を受けて計画を進めている地区はございますが、現時点で新たな大規模開発が明確に確定しているものはございません。

委員： 開発の計画が立ち上がる、または見えてきた時点で、必要に応じて交通量配分についても見直した上で、進め方も含め考え直して進めるということにならざるを得ないのではないかと思います。とりあえず現在は開発の予定がないということで当面は進めさせていただいて、開発の予定が出来た時点で検討させていただくということではよろしいでしょうか。

事務局： はい。

委員： キセラ川西事業関連の都市計画道路以外は、上位計画に位置付けがないということではよろしいでしょうか。

事務局： 美園線についてはキセラ川西事業の中では整備されない路線ですので、上位計画に位置付けられるのは、火打滝山線と小花滝山線のみとなります。

委員： この2路線に関しては、上位計画の中に位置付けがありますので必要性が高いということでしょうか。また、それ以外の路線については上位計画に位置付けがないため、柔軟に対応できるということでしょうか。

事務局： そうでございます。

委員： 機能代替可能性の検証につきまして、機能代替と機能補完について検討を行っていくこととなりますが、関連する資料が他にもあるのか、またどのような観点で評価していけばよいのでしょうか。

事務局： 現在の都市計画道路が持っている機能が他の路線で代替できる路線があるのであれば廃止できると考えております。課題が残るものもあるかとは思いますが、現在の都市計画道路の機能がそのまま代替できるのであれば、廃止可能というように考えております。

委員： 明確に1対1で示せないにしても、最終的に都市計画道路網見直し専門委員会から都市計画審議会に挙げていく時には、このような根拠であるからということをはっきりしておく必要がありますので、その書き方も今のうちから考えておいた方がよいと思います。

議題(2) 兵庫県都市計画道路網見直しガイドラインに基づく検証(1次評価)

議題(3) 各路線の見直し方針について

多田東谷線

委員： 歩道や自転車のネットワークについてですが、代替については必ずしも道路沿いになければならないということではないと思っており、その辺りが判断できるような資料を作成していただきたいと思います。

委員： 橋梁形式の道路をそのまま残しておくというのは、難しいのではないかと思います。存続が妥当ということは、当初計画をそのまま残したまま、存続と位置付けるということでしょうか。または、橋梁形式は難しそうなので、その形態については後々検討するというのでしょうか。

事務局： STEP4の中で、整備・廃止形態について検討を行うこととなりますので、今回の1次評価では、STEP1～3の路線機能についての評価を行っていきたいと考えています。

委員： STEP1～3と分けて評価していくことは機能的ですが、議論する際には全体状況を理解してからが良いですが、全体状況を理解しようと思うとSTEP4のところまで議論が進んでしまいま

す。議論の中では行ったり来たりがありますが、路線の状況によって資料を準備していただいた方が良いでしょう。

石道上野線

委員： この道路に対する1次評価について、事務局の判断どおりとさせていただきます。

火打滝山線

委員： 区間3、4につきましては概成済みということですが、県のガイドラインに沿って評価すると廃止となります。そのところをもう少し丁寧に説明していただいた方が良いでしょう。

事務局： 県のガイドラインで機械的に評価を行うと、現道が都市計画道路並みに機能を有していれば廃止という評価となってしまいますので、概成済みの考え方について、少し資料を整えて議論していきたいと考えております。

委員： 全体のネットワークや今後の道路計画の考えで、検討していかななくてはならない部分かと思えます。

先の話となりますが、考え方としては、火打滝山線が他のどの街路と接続しているかも関係してきます。区間3、4を廃止し、確実に都市計画道路の整備ができる区間1、2だけを残して都市計画変更をするという方法もあります。

また、区間3につきましては、全幅が確保されていて歩道幅員が足りないということになりますと、空間の再配分をして歩道の確保に持っていくということになりますが、もしその考えがある程度見込めれば存続ということもあり得ます。

色々な考え方があり、全体のネットワークや今後の道路計画で、検討していかななくてはならない部分かと思えます。

委員： 色々な選択肢がありますので、次回の会議で我々にその選択肢を全て説明していただき、最終的にその選択肢の中から絞りたいと思います。ですから事務局としても、絞ったものの中から提示するのではなく、選択肢全てを説明していただきたいと思います。

多田清和台線

委員： 最終的に飛び飛びに存続・廃止となった際に、路線としてどう判断するのかという問題になりますが、それはまだ先の話になりますので、1次評価の結果は事務局の判断どおりとさせていただきます。

小花滝山線

委員： ほとんどの区間が終わっており、残りが1区間のみというような場合の判定はどうするかということになりますが、今後の検討という形になりますね。

美園線

委員： この先の判断が難しそうですが、1次評価については事務局の判断どおりとさせていただきます。

ます。

矢問畦野線

委員： 矢問畦野線は、多田清和台線とどちらを優先する路線かという考え方があります。1次評価では機械的に評価を行っていますので、今後の調査の結果を踏まえた上で、検討という形になると思います。

見野線

委員： 当初の都市計画決定理由では、沿道付近の土地利用の合理化、市街化の連絡及び交通能率増大を目的とするということで、他の市町を跨いだ都市連携を想定して都市計画決定されていますので、都市計画道路を廃止し、道路事業で整備をしていくという大きな話を含め、STEP 4ではその方向を示していただければと思います。

当初の都決理由を見落とさないよう進めて下さい。

資料については、市政情報コーナーに設置しています。